

平成30年度 学位記授与式学長告辞

九州工業大学長 尾家 祐二



本日、ここに平成30年度の学位記授与式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで卒業生・修了生を物心両面から支えられました保護者・御家族の皆様のお喜びはひとしおと、衷心よりお祝い申し上げます。

本日、皆さんが、九州工業大学を卒業・修了されるこの機会に、皆さんが活躍する未来と、その未来に向かう姿勢について一緒に考えたいと思います。そのために、2つの話題を取り上げます。一つは世界経済

フォーラムのレポート、もう一つは日本万国博覧会に関連することです。

まず初めに、世界経済フォーラム (World Economic Forum) は、昨年、「仕事の未来レポート (The future of Jobs Report) 2018」を発表しました。第4次産業革命が展開する中で、今後、仕事の内容や仕事の仕方などがどのように変化するかを予測しており、高速なモバイルインターネット、人工知能、ビッグデータ解析、クラウド技術等の情報通信技術は、広い分野におけるビジネスの成長を促すものとして期待されています。人間と機械の役割分担について見てみると、2018年の時点では、人間は仕事量のうち71%を担当していますが、今後10年以内に、より多くの仕事を人間ではなく機械が実行するようになり、2025年までには人工知能や機械と人間の仕事量が逆転すると予測されてい

ます。そして、人工知能やロボット等の導入によって、多くの雇用が失われます。ただし、一方では、それ以上の新たな雇用が生み出されるとも予測しています。

今後は一層、多様で複雑化する課題に対して、物事を客観的に把握し、判断し、実行する能力が必要とされます。もちろん、そのための知識とスキルを獲得することは多くの時間を要する大変困難なことであり、私たちが、自らの能力を高め、多くの知恵を活用し続ける気持ちを持つことが大切になります。

さて2つ目の話題、万国博覧会についてです。皆さん、ご存じの通り2020年には東京においてオリンピック・パラリンピックが開催され、2025年には大阪において万国博覧会が開催されることになりました。前回は、1964年に同じく東京でオリンピックが、1970年には同じく大阪で万博が開催されました。約50年前に開催された万博では、「人類の進歩と調和」をテーマに様々な技術も披露されました。例えば、そ

の後携帯電話に発展するワイヤレス電話、動く歩道やモノレール等の新しい技術を体験することができました。それらは今では当たり前のように日常生活に浸透している技術です。そしてその際に、「お祭り広場」と呼ばれる大きな建造物が作られ、ここにシンボルタワーが作られました。そのデザインを、当時まだほとんど無名の岡本太郎氏が担当しました (堺屋太一著「地上最大の行事 万国博覧会」(光文社新書) 参照)。そのタワーの名称は「太陽の塔」です。岡本太郎氏は、1954年に出版された「今日の芸術」(光文社知恵の森文庫) において、芸術は、飛躍的な創造を起し、見る人に一種の緊張感を与えるべきものとして「今日の芸術は、うまくあつてはいけない。きれいであつてはいけない。ここよくあつてはいけない。」と述べ、「芸術は決意の問題」であるとも指摘しています。そして、技術についても、「技術は、つねに古いものを否定して、新しく創造し、発見していくものです。つまり、芸術について説明したのと同じに、革

命的ということがその本質なので「と述べています。まさに、技術がイノベーションを引き起こすことを期待しています。65年前に書かれたものですが、今でもとても新鮮で、熱いメッセージです。

社会と技術は互いに影響し続けます。新しい技術が生み出されることによって社会活動が変化し、私たちの思考方法や行動さえも変化します。逆に、変化した社会活動にもなう新たな要請や期待に対応する技術がさらに生み出されていきます。ダイナミックに変化し続ける未来において、皆さんが、知識、スキル、想像力と熱い決意を活かせる機会は数多く訪れるはずです。そこで本学で培った技術、スキルおよび学び続ける能力を是非とも最大限に活用してほしいと願っております。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、今後活躍されまことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうござります。